

評価結果概要表

平成21年 9月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	2276600398
法人名	都メディカル有限会社
事業所名	グループホーム福田の家
所在地 (電話番号)	静岡県磐田市東小島260 (0538-55-1700)
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡市清水区迎山町4番1号
訪問調査日	平成21年8月4日

【情報提供票より】(平成21年7月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤 17人/ 非常勤 7人/ 常勤換算18.4人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	¥35,500		その他の経費(月額)	
敷金				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食		昼食	
	夕食		おやつ	
	または1日当たり ¥1,000			

(4) 利用者の概要(平成21年8月4日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名	
要介護1	5 名	要介護2	10 名			
要介護3	9 名	要介護4	3 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	81 歳	最低	62 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大橋医院、原歯科医院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム福田の家は、田園風景の中にあつて清潔で開放感がある木造平屋建てのホームである。毎朝利用者全員がホーム前の広場に出て外気浴を楽しんでいる。歌があり踊りがある外気浴は利用者の健康と気分転換を兼ね備え、全員がゆったりとした暮らしをエンジョイしている姿が見てとれた。法人内における研修制度や勉強会など職員の育成に力点を置いた運営は、利用者本人を中心とした介護支援の中で如何なく実行に移されている。また、懸案であつた地域との交流も自治会・地域の人達の協力を得て、運営推進会議も軌道に乗ってきており、地域密着型介護を視野に入れ「その人らしく安心して過ごせる家」を目指しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価での課題については改善が図られ、調査報告書を玄関入口に面会受付簿と共に置くなどして、家族等にも周知する取り組みを図っている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義を理解しており、前回の自己評価にあつても、各ユニットごとに計画作成担当者が中心になって実施し、課題について改善に向けての取り組みがされている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、市関係者・自治会長・民生委員・中老会長・子供会会長・地域住民・家族代表等々多士済々のメンバーが参加して2ヶ月に1度の割りで開催されている。ホームの現状・外部評価の報告や多くの意見交換など多義に亘り双方向的会議となっており、出された意見等を参考にしてサービスの向上に役立たせている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	契約時に、苦情や相談に応じる窓口のあることを伝えてあるほか、運営推進会議あるいは家族等の訪問時には意見等を聞くようにしている。また、運営推進会議において意見箱の設置を望む要望があつたことから、玄関受付場所に「ご意見箱」が置かれている。解決の難しい意見等の場合には行政に相談するようにしている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会が協力的で、お祭りの屋台をホームまで回してくれたり、中老の会(50歳以下の人達を作るサークル活動)との交流もある。地元で行なわれる豆まきやお祭り、廃品回収作業にも積極的に参加している。また、1~2週間に1度の割りで中学生のボランティア活動を受け入れているなど地域との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日常生活の中で、利用者を支えるケアはどのようにあるべきかを職員全員での話し合いにより「その人らしく安心して過ごせる家」を理念としてつくりあげている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化を図る上から、理念を目のつきやすい場所に掲げており、職員の声かけ・接する態度にも理念の浸透が見られる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会が協力的で、お祭りの屋台をホームまで回してくれたり、中老の会(50歳以下の人達を作る会)との交流もある。地元で行なわれる豆まきやお祭り、廃品回収作業にも積極的に参加している。また、1~2週間に1度の割りで中学生のボランティア活動を受け入れているなど地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部・自己評価とも、その意義を理解しており今回の自己評価にあっても、各ユニットごとに計画作成担当者が中心になって実施している。外部評価での課題については改善が図られ、調査報告書を玄関入口に面会受付簿と共に置くなどして、家族等にも周知する取り組みを図っている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、市関係者・自治会・民生委員・子供会・地域住民等々多士済々のメンバーが参加して2ヶ月に1度開催されている。ホームの現状・外部評価の報告や多くの意見交換など多義に亙り双方向的会議となっており、出された意見等を参考にしてサービスの向上に役立たせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の定例会議に参加したり、行き来する機会を多くつくり連携を密にするように努めている。また、毎月1回介護相談員を受け入れ、利用者の生活相談にも乗っていただいている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等への報告は、面会時あるいは体調の変化のあった際に行なっている。遠方の家族等には毎月の金銭管理報告のほか、3ヶ月ごとにケアプランを送っている。	○	面会のできない家族等には、利用者の暮らしぶりや健康状態を一筆箋等を添えるなど工夫した取り組みが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、苦情や相談に応じる窓口のあることを伝えてあるほか、運営推進会議あるいは家族等の訪問時には意見を聞くようにしている。また、運営推進会議において意見箱の設置を望む要望があったことから、玄関受付場所に「ご意見箱」が置かれている		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動により利用者に不安感を与えないようユニット間の移動は1名とするようにしている。また、新規採用者にはベテラン職員とマンツーマンにより利用者との馴染める関係を築くようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用者には採用時訓練から始まり、その他の職員も段階的に研修を行なうシステムが構築されている。また、年3回のレポート提出を義務付けられており、優秀なものには報奨制度もあって職員の意欲を助長する取り組みも行なわれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村の同業者とは定期的に会議が開催され、情報の交換も行っている。また、法人内においても館長同士の情報交流を常に行なっているが、職員にあっては、総会・忘年会を通じての交流となっている。	○	職員同士の交流が更に発展されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居するに当たっては利用者本人・家族等と詳細に話し合いを行なっている。また、本人が安心して暮らすことが出来るように希望があればお試し利用も可能としている。入居後は生活歴・日々の行動を見ながらプライバシーに配慮した支援が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側・される側と言った関係に捉われず、人生経験豊富な人達と一緒に助け合って生活をするような配慮がされている。時には感情そのままに表したり、教えたり教えられたりして喜怒哀楽を共にする関係作りが築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常のふれあいの中で利用者一人ひとりの思いや願いを汲み取り、「何をして欲しいのか」「自分だったらどうしたいのか」を考えながら、支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月初め一週間毎日ユニット会議を行い、利用者の問題点やケアのあり方について職員同士の話し合いをしている。3ヶ月毎モニタリングを行い、利用者の状況に即した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は利用者が必要とする支援を確認しながらケアをしている。入院や退院など状況の変化に応じて介護計画を随時見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医への通院介助が行なわれている。家族の状況を考慮して職員による病院への移送・付き添いにも対応している。家族との外出や外泊・遠方の家族の宿泊等、その時々に応じた柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択は本人や家族の希望により対応している。月に1度受診し、医師と相談・確認を取りながら個々に合わせた適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族やかかりつけ医と話し合いをし、重度化した場合はケアセンターや病院へ移っている。現在終末期の対応について職員同士の話し合いが行なわれ検討されているが、具体的な対策は出ていない。	○	安心して納得がいく終末期の迎え方について(家族・職員・医療関係者)と話し合いを重ね、ホームとしての対応指針を作成し、方針の統一を図ることが望まれる、
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りを尊重した対応や言葉掛けに配慮している。記録や書類は鍵を掛けて保管し、肖像権に関わる写真の掲示に家族の了解を得るなど、個人情報の取り扱いに注意しているが、面会簿については考慮されていない。	○	家族間の揉め事の原因になりえる面会簿も記録の一部と考え配慮されることが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望やペースを優先し、利用者の意思を否定しないケアを心掛けている。野菜や観葉植物を育てる利用者、曾孫の為に編み物をする利用者、夕食時にお酒をたしなむ利用者、職員管理の下煙草を吸う利用者等個々の希望に添った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後他の人の分まで片付ける生き生きとした利用者の姿が見られた。職員は自分の弁当を食べているが、同じ食卓を囲む雰囲気は和気あいあいとしたものだった。ホームで採れた野菜を用いたり、利用者の要望に応じて外食をしたり、月に1度嗜好調査が行うなど、食を楽しむ工夫を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3日程度入浴している。利用者の体調に合わせた入浴時間を設定するなど、配慮しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来ること・得意なことを考慮し、一人ひとりに合わせた働きかけをしている。洗濯や食事の後片付け・野菜作りや編み物・塗り絵等、それぞれの力を活かしながら活動している。皆の歌に合わせて踊りを披露する利用者や玄関先の花を生ける利用者、助け合う利用者の姿が見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム前広場での外気浴や散歩・買い物等は日常的に行なわれている。菜の花や桜の花見・ファミレストランや回転寿司・ラーメン等の外食・地域の祭り見物等、利用者の希望や健康状態に配慮しながら外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを実践している。職員はさりげなく利用者の居場所を確認し、安全で自由な生活が出来るよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年の消防署との合同防災訓練で明らかにされた問題点を再確認し、今後活かす取り組みを検討している。12月には自治会の自主防災訓練に参加を予定している。	○	利用者が如何に安全に避難できるかを念頭にした防災対策が必要である。特に認知症を理解していただいた上で、自治会等の協力を得られるような働きかけが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は業者を通じて搬入され、栄養バランス等は考慮されている。毎回の食事摂取量・水分量は記録され、刻み食や糖尿病食等利用者それぞれの状態に合わせた支援がされている。希望者には居室で飲むペットボトルに入れたお茶が配られる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは平屋造りで天井が高く、明るく開放感がある。庭には花や実がなる木がいくつも植えられ、植物の成長や収穫が利用者の楽しみになっている。今年は新たに桜の苗を植え、春の開花を待ち望んでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や日用品が持ち込まれ、居心地よく生活できるよう配慮されていた。家族の写真や趣味の物等が飾られ、その人らしい居室づくりがされている。窓辺で観葉植物を育てている利用者もいた。		